



T

退院後も

T

つながります

A

あなたの

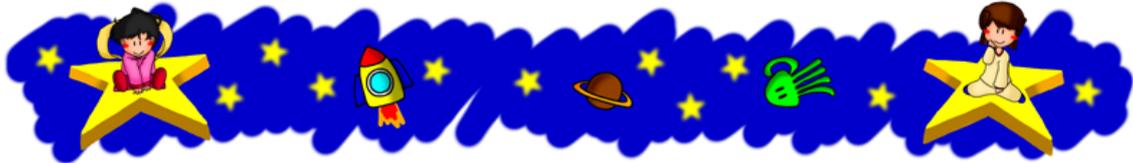
K

ところとからだ

8月15日号
地域医療連携室発行

今年は、梅雨明けが遅くじめじめした空気が長く続きました。クーラーのある部屋に閉じこもっていると、自然の涼風への憧れが募ります。みなさん、体調を崩されなかったでしょうか？新型インフルエンザも依然流行しています。体調管理に心掛けましょう。暑すぎるのも困りものですが夏は夏らしく、それらしくあるのが一番いいです。

紹介します！『透析センター』



Q：透析センターの紹介をお願いします。働いている職員や透析センターのPRをどうぞ。

A：透析センターでは、腎不全の患者様に少しでもお役に立つことを心がけ、内科医師及び、看護師 8 名、臨床工学技士 3 名のスタッフで維持透析ならびに血液浄化療法・腹膜透析に取り組んでいます。

同時に、重症肺炎や劇症肝炎などの重症の患者様に対して、血漿交換や持続緩除式血液濾過などの各種血液浄化法にも 24 時間対応で積極的に行っています。

透析センターでは、患者様とのより深い信頼関係を築き、医師、看護師・臨床工学技士はもとより、他職種との連携を図り、病院全体でのチーム医療をモットーに患者様の診療に取り組んでいます。



Q：透析看護師が目指すものは？

A：現在、当施設で透析を受けられている患者様の多くは高齢の方です。私たち透析看護師の目指すもの、また、透析現場に求められていることは、患者様の心身の変化や生活実態を十分に理解し、その患者様に応じた安全で苦痛の少ない透析を継続していくことだと考えています。生活上の制限については、患者様ができることを軸に、個々に合った生活支援を提供することが重要だと考えています。

透析を受けられている患者様が、希望や楽しみを持ちながら、人として大切にされていると感じられる温かい関係性のなかで透析生活を送れるように、常に尊厳を守りながら関わりを持って支援することを目指しています。

Q：病院が新しくなって一番変わったところは何ですか？

A：『隙間風』がなくなりました。以前の病院は老朽化が激しく隙間から、夏は冷気が逃げ・・・冬は暖気が逃げ・・・恐らく・・・透析センターは外気温に近い温度・湿度でした。新病院では部屋の隙間がなくなり空調設備も整い、患者様に直接、空調の風が体に当たらず快適に透析を受けていただける環境を提供できるようになりました。また、透析隔離室が新設されインフルエンザ等の感染症による他の患者様への感染拡大を防ぐことができ、みなさまに安心して透析を受けていただけるようになりました。

Q：透析センターの面積が広がったと思いますが、何名の患者さんが透析できますか？

A：現在、21床のベッドがあり44名の患者様が透析を受けておられます。腎不全に至る原因の第一位が生活習慣病の糖尿病であることにより、今後、益々患者様が增加していくと思われま。患者様増加を見据え、増床の準備を進めながら患者様に安心して透析医療を受けていただけるよう努力していかねばならないと感じています。
また、面積が広がった分、スタッフの行動範囲が増加し、効率よく業務を実施できるよう業務改善を実施しています。

Q：臨床工学技士ってなにをする人？

A：近年、医療機器は目覚ましい進歩を遂げ、医療の重要な一翼を担うようになっており特に血液浄化装置、人工呼吸器等の生命維持装置は、医療分野に新たな可能性を開くものとして大きな役割を果たしています。これらの保守点検には、単に医学的知識ばかりでなく、工学的知識も必要とし、装置そのものも時代とともにますます高度かつ複雑なものとなってきています。このような現状の中、生命維持管理装置（血液浄化装置等）の操作及び保守点検に従事する専門技術者として臨床工学技士の資格が定められました。当施設にも3人の臨床工学技士が活躍しています。『「知識」・「技術」・「笑顔」3つがそろって一人前』を合言葉にして日々、患者様の安全を守っています。

Q：最後に患者さんの感想はどのように言われていますか？

A：病院が新しくなり、患者様も喜んでおられる様子が伺えます。透析歴14年の患者様は「ベッドとベッドの間隔が広くなり移動がとても楽になった、以前はベッド間が狭く窮屈だった。」と言われていました。しかし、その反面、室内が広い為「看護師がどこにいるのか確認しづらくなった」「孤独感が増した」とマイナスの意見も聞こえてきました。こういった意見があることを再度スタッフ同士で確認し合い、さらなる安全・安楽な透析環境を提供するように努めていかねばならないとスタッフ一同考えております。



今回は透析センターの登場でした。生活習慣病になってしまったら・・・でも透析はしたくない、というのが患者さんの願いかもしれません。でもこの透析で多くの人の命が救われます。予防医学で病気にならないように気をつけなければいけないのですが、いざというときには播磨病院透析センターを思い出してください。

T・TAK新聞のバックナンバーは、播磨病院ホームページ
<http://www.harima-hp.jp/main.htm> からご覧いただけます。

By : SK